

平成 30 年度
札幌市子どもに関する実態・意識調査
報告書

平成 31 年 3 月

札 幌 市

目次

調査概要	1
調査結果	
【大人】	3
問1 性別	5
問2 年齢	6
問3 関わりのある子どもの有無	7
問4 最近の子どもを取り巻く課題	8
問5 子どもの印象①～⑬	9
問6 子どもにとって何でも話せる相手	22
問7 子どもへの接し方①～⑩	23
問8 子どもが安心していられる場所	33
問9 地域と子どもの関わり①～⑧	34
問10 子どもが自然・社会・文化体験をする機会①～⑨	42
問11 子どもが自然・社会・文化体験をしやすい環境か	51
問12 子どもの意見表明や参加の機会①～⑦	52
問13 子どもが抱える不安や悩み	59
問14 子どもを言葉や力で傷つけやすい人	60
問15 子どもに関する相談機関の認知度①～⑬	61
問16 相談機関に望むこと	74
問17 子どものスマートフォン・携帯電話・パソコンの利用について①～④	75
問18 子どもの権利の認知度	79
問19 子どもの権利を何で知ったか	80
問20 子どもの権利に関して知っていること	81
問21 子どもの権利で大切にされていないもの	82
問22 子どもの権利が大切にされているか	84

【子ども】	85
問 1 性別	87
問 2 学年等	88
問 3 夢中になれること・充実していること	89
問 4 安心していられる場所	90
問 5 子どもが自然・社会・文化体験をする機会①～⑨	91
問 6 子どもが自然・社会・文化体験をしやすい環境か	100
問 7 近所（地域）の人たちとの関わり	101
問 8 地域の行事や活動に参加しようと思う理由	102
問 9 意見表明や参加の機会①～⑥	103
問 10 自分自身についてどう思うか①～⑩	109
問 11 自分を理解してくれる人	119
問 12 保護者の自分への関わり①～⑩	120
問 13 困っていることや嫌なこと（悩みごと）	130
問 14 悩みごとの相談相手	131
問 15 自分を言葉や力で傷つけやすいと感じる人	132
問 16 相談機関の認知度①～⑩	133
問 17 相談機関に望むこと	143
問 18 スマートフォン・携帯電話・パソコンの利用のしかた	144
問 19 スマートフォン・携帯電話・パソコンの利用について①～④	145
問 20 子どもの権利の認知度	149
問 21 子どもの権利を何で知ったか	150
問 22 子どもの権利に関して知っていること	151
問 23 子どもの権利で大切にされていないもの	152
問 24 子どもの権利が大切にされているか	154

集計表

【大人】 155

【子ども】 237

調査票

【大人】 【子ども（10～12歳）】 【子ども（13～18歳）】 307

調 査 概 要

1 調査目的

札幌市では、子どもが安心して暮らし、健やかに成長するまちを目指して「子どもの権利条例（子どもの最善の利益を実現するための権利条例）」を制定し、子どもの権利の保障の観点から各種施策を推進する計画として「子どもの権利に関する推進計画」を策定している。

本調査は、子どもに関する大人の意識や子どもの状況を把握し、現行計画の検証や次期計画策定に向けた施策検討の基礎資料とするために実施した。

2 調査項目

- ・大人の子どもに対する意識・認識について【大人】
- ・子ども自身の意識・認識について【子ども】
- ・子どもの安心・体験・参加等の状況について【共通】
- ・地域との関わりについて【共通】
- ・子どもの権利の保障の状況について【共通】

3 調査方法

- (1) 調査対象 【大 人】札幌市在住の19歳以上の方 5,000人
【子ども】札幌市在住の10歳以上18歳以下の方 5,000人
※ 子ども用の調査票は、10～12歳用と13～18歳用の2種類を作成
- (2) 抽出方法 等間隔無作為抽出（住民基本台帳から対象者を抽出、平成30年11月時点）
- (3) 調査方法 郵送による調査票の配布・回収
- (4) 調査期間 平成30年12月18日（火）～平成31年1月11日（金）

4 回収結果

	対象数	回収数	回収率
大人	5,000	1,589	31.8%
子ども	5,000	1,662	33.2%
10～12歳	1,623	674	41.5%
13～18歳	3,377	988	29.3%
合計	10,000	3,251	32.5%

調査結果の表示方法

(1) Nとは質問に対する回答者総数で、比率算出の基礎となる数を示す。

(2) 各回答の百分率はNを基礎として算出し、小数点第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100.0%にならない場合がある。

また、調査結果の記述で複数の選択肢を組み合わせた比率を示す場合（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計など）は、個々の選択肢の回答者数の合計をNで除して百分率を算出し、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ上で表示されている比率を合計したものとは数値が異なる場合がある。

(3) 大人の調査結果及び集計表では、問3「関わりのある子どもの有無」の回答結果に基づき、回答者を下記のとおり分類している。

・ **高校生以下の子どもがいる**

「自分の子ども（乳幼児）」・「自分の子ども（小学生）」・「自分の子ども（中学生）」・「自分の子ども（高校生）」のいずれか1つ以上を選択した人

・ **乳幼児の子どもがいる**

「自分の子ども（乳幼児）」を選択した人

・ **小学生の子どもがいる**

「自分の子ども（小学生）」を選択した人

・ **中学生の子どもがいる**

「自分の子ども（中学生）」を選択した人

・ **高校生の子どもがいる**

「自分の子ども（高校生）」を選択した人

・ **高校生以下の子どもはいないが、地域の子どもと関わりがある**

「自分の子ども（乳幼児）」・「自分の子ども（小学生）」・「自分の子ども（中学生）」・「自分の子ども（高校生）」のいずれにも選択がなく、「親族や友人の子ども」・「近所（同じ地域）の子ども」・「スポーツ・文化など活動団体等の子ども」のいずれか1つ以上を選択した人

・ **身近に子どもはいない**

「身近に子どもはいない」を選択した人

なお、調査結果では、子どもとの関わりが多いと考えられる順に、**高校生以下の子どもがいる**・**高校生以下の子どもはいないが、地域の子どもと関わりがある**・**身近に子どもはいない**の3群の結果を表示している。